



福島県立喜多方高等学校

Fukushima prefectural KITAKATA High School



令和7年度入学  
1年次生

学年だより

第6号 / 令和7年9月30日

## 伝統を守り、新しい歴史をつくる

10月16日（木）は喜多方高校の**創立記念日**です。本校は、旧喜多方高校と旧喜多方東高校が2021年（令和3年）4月1日に統合して誕生しました。統合が福島県議会にて正式に決まったのが10月16日であることから、この日が、新生喜多方高校の創立記念日となりました。

源流となる旧喜多方高校の前身の旧制喜多方中学校は1918年（大正7年）に福島県立中学校として県内6番目に、旧喜多方東高校の前身の旧制喜多方高等女学校は1928年（昭和3年）に福島県立高等女学校として県内8番目に設立されました。両校は、福島県では比較的**長い伝統を誇って**おり、多くの同窓生を輩出してきました。本紙左上にある本校の校章は、両校のシンボルである「桜」と「プラタナス」を左右にあしらい、統合高校が両校の伝統を引き継いでいくことを表しています。

当時の木造校舎の写真が会議室に飾られています。本校は、100年以上前の旧制喜多方中学の時代からずっとここ桜壇の地にあり、学び舎では皆さんと同年代の若者が毎日学校生活を送ってきました。この写真を見ると、当時の学生達は何を考えながら青春を謳歌してきたのか、想いを巡らさずにはられません。現在まで脈々と受け継がれてきた歴史、先人が培ってきた伝統の上に我々がいることを思うと感謝の気持ちを忘れてはいけない気がします。

**今の時代を担うのは皆さん**です。喜高生の日々の取り組みが、喜多方高校の歴史をつくり、後輩たちに受け継がれていきます。



### 第5回 KITAKATA WALK

10月10日（金）開催  
（小雨決行）

コース：距離19.8km（教室に掲示してあるコース地図参照。男女とも同距離。）  
大関門① 関屋集落付近・大関門② 雄国沼入口・ゴール 本校西側駐車場

流れ：9：00一斉スタート（本校グラウンド）。ゴールした順に放課とする。  
PTA役員のご厚意により、豚汁の振る舞いがあります。

注意：交通ルールを守り、交通事故防止に留意すること。

服装は、体育時体操着とする。ただし、クラスTシャツ、部活動ジャージ着用可。

帽子、雨具等の準備が望ましい。不正行為（近道）禁止。

水分は各自準備。弁当を持参し、適当な場所にとってよい。食堂での外食や買い食いは禁止。

トイレは北塩原体育館、熊倉小前公民館。

14：00までに福祉センター交差点を通過できない生徒は棄権とする。





## 冬季の服装について

ネクタイ・リボンは10/1から常時着用

気温に応じてブレザーを脱いで生活してもよい（登下校時も）

ブレザーを脱いだ場合の上服は指定のシャツ・ブラウス・セーター・ベストのいずれか

温度調節はブレザーで行う ブレザーを着用せずにアウターを着ての登下校は認めない

学校にブレザーを置きっぱなしにしない



▲積極的にインタビューし、内容を記録しました。



## 総合的な探究の時間 意識したいこと

9月9日（火）総合的な探究の時間において、社会人トークフォークダンスを実施しました。社会人との対話をとおして、地域探究を行う上での生徒の興味・関心を引き出すことを目的として行いました。

各分野で活躍中の社会人（講師14名）の方に、生活の場として会津を選んだ理由についてうかがった後、各自がもっと知りたいと思った事柄について質問し内容を深掘りしました。

11月に予定されている喜多方市内フィールドワークへ向け、各自探究の質と精度を上げていきましょう。

### 1. 問いを持ち続けよう

「なぜ？」を意識しインタビューすることで、探究は深まります。

### 2. 計画的に進めよう

期限を意識し、役割分担を明確に。途中の振り返りも大切に。

### 3. 情報を正しく扱おう

出典を明らかにし、信頼できる資料を活用しよう。

### 4. 協力して学ぼう

班員の意見を尊重し、自分の考えもわかりやすく伝えることが大切。

### 5. 発表は学びの共有の場

成果を披露するだけでなく、自分や仲間の探究を振り返る機会にしましょう。

### 6. ふり返りを忘れずに

「今日の学び」「次への課題」を記録することで、次につながります。

## 1日の中の自由時間

随筆「徒然草」を書いた作者は誰ですか。吉田兼好ですね。その吉田兼好は時間の大切さを次のように言っています。

「そのわずかな時間に、無駄なことをし、無駄なことを言い、無駄なことを考えることは愚かなことである。」

今、私達が生きている1日24時間から、必ず使う時間「食事の時間、睡眠時間、風呂、トイレ、会話、学校への行き帰りの移動時間など」の時間を差し引くと、1日の残りの時間＝自分で自由に使える時間はわずかな時間となります。

みなさんそれぞれの1日24時間から、食事の時間、睡眠時間、授業時間、風呂などの生活時間を差し引いたら、自分で自由に使用できる時間はどれくらい残りますか。1度計算してみてください。この残ったわずかな貴重な時間を、自分にとって意味のあるものにするのは大切です。

自分の「今、しなければならないこと」「今しかできないこと」をはっきりさせて、このわずかな自由時間を効果的に使ってほしいと思います。